

令和7年度 とまり樹はうす 事業報告書

1 総括

平成28年度の開設以来、緊急相談ケースや宿泊経験を行う体験利用の幅の拡充を目標とし365日の開所を目指しているが、慢性的な人材不足により土日祝日の開所については7年度においても緊急相談ケースの受入に留まった。ただし、平日は全て職員を配置し、登録者51名中体験利用を希望した20名全員が月に1回程度利用したほか、緊急の相談ケースについては土日祝日の利用も含め8名の受入を行った。利用時は概ね安定して過ごすことができおり、経験による宿泊への慣れと職員との関係構築も進んでいる様子が伺えた。短期入所事業については、セーフティネットとしての重要な役割があるが、地域にその資源が少ないうえ、人材不足という課題は多くの法人が抱えている課題として見受けられた。特に緊急相談などの急を要す場合は一つの事業所だけの対応では受け入れが困難であり、利用決定までに時間がかかるなど利用者にとって不安な状況が続くことが多々みられた。これらを解決するために小平市内の短期入所事業所へ呼びかけ、緊急相談のスムーズな受入を目的としショートステイ連絡会を発足した。今年度はまず各団体が集まり情報交換などを行ったが、具体的な取り組みについては今後の課題となる。

2 事業概要

- 1) 施設名 とまり樹はうす
- 2) 事業種別 短期入所事業（グループホーム併設型）
- 3) 所在地 東京都小平市花小金井南町1-26-28
- 4) 経営主体 社会福祉法人未来
- 5) 利用定員 2名
- 6) 利用契約者数 57名
- 7) 法人認可年月日 平成14年12月11日
- 8) 事業開始年月日 平成28年4月1日
- 9) 職員（令和8年3月31日現在）
 - 管理者 1名
 - 生活支援員 15（常勤換算10.3）

- 3 基本理念 一人ひとりの自己実現の支援
互いの尊厳の尊重と信頼関係の構築
安心と希望のもてる生活

4 基本方針

- 1) 一時的な生活支援
家族または介護者が何らかの理由（冠婚葬祭、病気、事故、休養、その他の理由）により、一時的に自宅で支援することが困難な場合に、日常生活に必要な支援を行う。
- 2) 生活体験としての支援
生活体験の幅を広げ、より豊かな生活を支援する。

5 実施事業（活動内容）

- 1) 居室の提供
- 2) 食事の提供
- 3) 洗濯、掃除等の生活支援
- 4) 健康管理
- 5) 日中活動先（福祉サービス及び職場等）、関係機関との連絡、調整

- 6) 入浴等生活行為の支援
- 7) その他日常生活に必要な支援

6 日 課

5時00分～	7時30分	起 床
7時30分～	9時30分	日中活動先及び勤務先等へ外出
16時00分～	17時00分	利用開始
16時00分～	20時00分	入 浴
18時00分～	19時00分	夕 食
20時00分～	22時00分	就 寝

7 重点課題・目標に対する評価と課題

1) 活動

(1) 利用者支援の充実を図る

① P D C Aサイクルの実施

- ・ 個別支援計画の共有
- ・ 計画に基づく支援
- ・ 利用者の様子や支援内容等の記録
- ・ 支援の評価と必要に応じた計画の見直し

(会議等による個別支援計画の周知の他、閲覧環境を整備し、受入前に担当職員が計画を確認する。職員の業務チェック表で実施の有無を確認する。)

(本人や家族から感想や利用後の様子等の聴取し、評価に活かす。)

② ケース記録の充実

- ・ 利用者の行動のみでなく、その背景や心情の考察
- ・ 利用者の嗜好、変化等に対する気づき

(管理者や現場責任者がケース記録を随時確認し、必要に応じて助言指導を行う。職員の業務チェック表で実施の有無を確認する。)

【成果と課題】

7年度に利用した28名全員の個別支援計画を作成した。全職員が業務開始前の個別支援計画の確認と業務終了後の支援記録の確認を行うことで、計画に基づいた支援の統一が徐々に進んでいる。また、職員間の情報共有や意見交換も以前より活発になってきている。ただし、記録については記載漏れや曖昧な表現が依然見られ、更なるスキルアップが必要である。殆どの利用者は月1回程度の定期的な利用を4年以上継続しており、流れを把握し、落ち着いて過ごすことができた。

③ 事故防止

- ・ 服薬管理方法等のマニュアルを遵守し、誤薬等の事故を防止する。
- ・ 無断外出行為のある利用者の安全確保のため、見守りを徹底する。また、必要止むを得ない場合は本人、家族の同意を得て夜間の建物施錠を行う。
- ・ 個々の利用者の行動特性に応じた危機管理方法を定め、共有する。

【成果と課題】

薬の服薬漏れ事故が1件あった(詳細は「9事故報告」参照)。その他、けが、離接等の事故は起きなかった。

(2) 緊急対応の役割を果たす

- ① 365日の支援体制を整備し、緊急対応の支援を行うことでセーフティネット機能の役割を

果たす。

❖常勤換算 1.4 名を採用し 11.0 名の支援体制とする。

②地域の短期入所事業所と連携を図り、事業所の状況、空き状況などを共有し緊急の利用者がスムーズに短期入所事業所を利用できるようにする。

【成果と課題】

① 7 年度の全利用者 28 名の内、緊急利用は 8 名で延べ 144 日、体験利用は 20 名で延べ 304 日だった。7 年度末現在、職員 14 名、常勤換算 9.9 人（全員グループホームとの兼務）で、必要な常勤換算数には、1.1 名不足している。特に土日祝日の男性職員が不足し、土日祝日については体験の受け入れを行わなかった。ただし、緊急の利用希望については平日に勤務している職員の勤務調整により支援体制を確保し受入を行った。緊急の利用希望については職員体制の都合で一部日程を変更した以外は、希望通りの受け入れを行うことができた。

《利用目的別実績》

	実人数	(昨年度)	延人数	(昨年度)
緊急利用	8 名	(9 名)	144 名	(152 名)
体験利用	20 名	(21 名)	304 名	(283 名)
合計	28 名	(30 名)	448 名	(435 名)

《曜日別実績》

	実人数	(昨年度)	延人数	(昨年度)
平日	28 名	(30 名)	426 名	(410 名)
土日祝	6 名	(6 名)	22 名	(25 名)
合計	34 名	(36 名)	448 名	(435 名)

※内実人数 6 名は平日、土日祝と重複

② 日頃交流のある小平市内の短期入所事業所を運営している 4 法人に呼びかけ緊急相談ケースの受け入れ状況等について情報交換会を行ったのち、小平市内にある全 13 団体へ呼びかけ、ショートステイ連絡会を発足した。緊急相談ケースの受け入れをスムーズに行うための具体的な方法等を検討することを目的とすることが合意された。当法人は社会福祉法人六三四とともに世話役として連絡会に携わることとなった。

2) 人材育成

- | |
|--|
| (1) 管理者、現場責任者の指導力向上
(2) 利用者の特性理解と関係性構築
(3) 職員間情報共有強化 |
|--|

【成果と課題】

- (1) 数年来の課題であった個別支援計画の共有については、1)、(1)、①に記載の通り。管理者、現場責任者と職員間のコミュニケーションは強化されつつあり、利用者本位の基本方針が職員間に浸透しつつあると感じている。
- (2) 相互に特性理解が進んでおり、利用者、職員の関係性は全般的に良好と感じている。
- (3) 1)、(1)、①に記載の通り。

3) 経営管理

- | |
|--|
| (1) 月次試算を正確に行い、計画的に予算を執行する。
(2) 介護給付費収入等の安定確保を行う。 |
|--|

令和 7 年度目標	令和 6 年度実績	差
-----------	-----------	---

利用率	70%	60%	10%
介護給付費収入	約680万円	529万円	150万円
都加算収入	約217万円	193万円	37万円
公費収入合計	約897万円	722万円	187万円

【成果と課題】

- (1) 月次試算表の分析により月々の経営状態の把握に努め、計画的に予算を執行した。
- (2) 1)、(2)に記載の通り、土日祝日の支援体制が確保できず、利用率は目標を下回った。しかし、前年度比では、利用率が1.8%増となり、収入は約38円増となった。

《利用率》	R7年度実績	令和6年度実績	前年度との差
	61.4%	59.6%	1.8%
(内訳)			
平日	86.6%	83.0%	3.6%
土日祝	9.2%	10.6%	△1.4%

《給付費等収入》

	R7年度実績	令和6年度実績	前年度との差
介護給付費収入	約560万円	約529万円	31万円
都加算の収入	約200万円	約193万円	7万円
総額	約760万円	約722万円	38万円

年間目標の達成率 84.7%

8 その他の課題

1) 夜間等緊急時の対応

【成果と課題】

夜間等の緊急時は、併設しているホームの職員と連携し支援態勢の確保を行うこととなっているが、夜間に緊急体制を要する事は発生しなかった。

9 事故報告

- 1月 朝食後薬を利用者へ渡しそびれ服用しなかった。夜勤の職員が、基本情報や支援計画を朝に確認しなかったことが原因である。再発防止策として、夜勤の職員は朝も基本情報の確認を行うほか、職員2名以上での服薬確認と毎回薬ケースを必ず確認することとした。

10 実施状況

- 1) サービス実施日数 自：令和7年4月1日 至：令和8年3月31日
264日間(内、土・日・祝日開設17日間)

11 利用状況

7、1)、(2)、①に記載の通り。

12 利用者状況

1) 年齢別

	実人数	延べ人数
・20歳以上30歳未満	12名	218名

・ 30歳以上40歳未満	12名	159名
・ 40歳以上50歳未満	3名	67名
・ 50歳以上60歳未満	1名	4名
合計	28名	448名

2) 区分別

	実人数	延べ人数
・ 区分2	1名	12名
・ 区分3	5名	76名
・ 区分4	9名	125名
・ 区分5	4名	65名
・ 区分6	9名	170名
合計	28名	448名

3) 性別

	実人数	延べ人数
・ 男性	22名	372名
・ 女性	6名	76名
合計	28名	448名

4) 居住状況

	実人数	延べ人数
・ 管内居住	22名	351名
・ 管外居住	6名	97名
合計	28名	448名

1.3 環境の整備

【成果と課題】

施設内外の美化と利用者周辺の整理整頓につとめ、危険の防止に努めた。

1.4 健康管理

1) 関係事業所や家族との連携を密にし、健康状態の把握に努める。

【成果と課題】

利用時に風邪症状や身体にあざや傷などがみられた場合は、日中活動先や家族等へ報告を行い、心身の状況等について共有を図った。大きな怪我や健康問題は発生しなかった。

2) 感染症対策を行う。

【成果と課題】

検温、手洗い、消毒、時間差の食事などの基本的な感染対策を行った。施設内での感染拡大はなかった。

1.5 防災計画

管理者の指揮のもとに、併設のグループホームとともに非常災害訓練を年3回実施する。

総指揮	管理者
連絡担当	生活支援員
救助担当	生活支援員

【成果と課題】

併設しているグループホームと合同で、災害時避難訓練を年2回実施した。